



セーフティー

長野分会

No.63



年末年始に備え安全確認徹底

安全パトロールと集団指導

当分会の年末労働災害防止安全パトロールと冬季労働災害防止集団指導が12月13日に行われた。パトロールは、安全指導者会と一般会員、長野労働基準監督署、県や長野市などの発注官庁から24人が参加。長野市内で3班に分かれ、建築・土木現場の冬季災害への備えなどを確認した。

出発式で、労災指導員を務める鹿熊聡副分会長は「週休二日の現場も増えたが、週5日の労働日数は一つのミスでも工期的に取り戻すことが難しくなる。忙しい時期は特に気持ちも焦ると思うが、そうした際にミスが起きないよう、しっかりチェックしてほしい」と呼び掛けた。

パトロール終了後の報告会では、「敷き鉄板がずれないように融接している」「開口部を板で塞ぎ注意喚起も掲げている」「泥で汚れた履物で転倒しないよう足洗い場とブラシを完備」などの良好な点を紹介。一方、「ローリングタワー上部に資材が置かれ、落下の危険がある」「構造物の鉄筋が足場の方に飛び出し危険」「足場の設

置が不安定な部分があった」などの問題点も指摘した。

集団指導はパトロール参加者と会員企業から50人が参加。飯島分会長は「職人の高齢化が進み注意喚起の内容も変化が求められている。まずは事故を絶対に起こさないと常に意識し、日々尽力してほしい」とあいさつした。

講演では、長野労働基準監督署から牧野宗一安全衛生課長が、積雪や凍結による冬季特有の労働災害防止に向けて、安全通路の確保や雪、水分の除去徹底などを呼び掛けた。五十嵐寛太監督官は、職場のハラスメントについて解説し、「立場や状況など互いの常識が違う場合に起きやすい。日ごろからコミュニケーションを密にし、相談しやすい環境整備が必要」などとアドバイスした。

のり面作業の基礎知識について学ぶDVDを鑑賞後、小池毅夫安全指導者による指差唱和が行われ、全員で年末・年始のゼロ災を誓った。

パトロールの結果

【特に良好と認められた点】

- △コロナ対策で石鹸等の利用を推奨している
- △事務所と現場両方にKYと緊急連絡先を掲示
- △金具の点検後に月毎で決めた色テープを貼っている
- △見やすく高い位置に吹き流しを設置
- △足場の開口部に注意喚起とロープで柵を設けている
- △電源BOXに鍵を付け取り扱い責任者名がある
- △歩行者と車両の通路を掲示物等で明確化
- △発電機の近くにオイルマットと消火器を設置
- △ダンプの停止位置に木材などで目印を設けている
- △鉄筋先端にしっかりキャップが装着されている
- △発注者の安全重点目標を掲示し安全意識を統一

【是正・改善を要する点】

- △土木現場で使う昇降階段に作業通路の明示必要
- △発電機のアースが1本だけで本体用のアースがない
- △KY危険値の計算が統一されていない
- △電源BOXの鍵が破損している
- △足場階段一步目の段差が高く対応が必要
- △再生資源利用計画の掲示がなかった
- △持込許可書の表記に間違いがあった
- △資材が散らかっている場所があり整理が必要
- △昇降設備の固定に不十分な部分があった
- △複数人が乗ると揺れる足場部分があった
- △風通しの強い足場隙間はネットではなく幅木が必要

◆印象に残ったパトロールポイント<良好な事例>

● ICT の活用

重機にICTを活用することで周りに誘導者等を置かなくても作業ができるので安全



● 第三者の安全確保

歩行者と車両が通る場所を明確に分けている



● 転落防止①

設置済み水路に転落しないようネットを設置



● 転落防止②

足場を隙間なくしっかり設置し転落を防止



●敷き鉄板

鉄板のズレを防止するため溶接して固定している



●転倒防止

長靴の泥を落とすための足洗い場とブラシを用意



●男女トイレの明確化

簡易トイレを男女で仕切り明確に分けている



●防犯対策

現場に監視カメラを設置



●安全対策

砕いたコンクリートを捨てる時に安全帯を着用



●防塵マスク

研り作業時に防塵マスクを装着しホコリを防ぐ



◆印象に残ったパトロールポイント<良好な事例>

●正しい道具の使い方

電源リールのコードを全て引き出して安全に使用している



●埋設物の明確化

光ケーブルの埋設部分に表示を置き注意を促している



◆印象に残ったパトロールポイント<検討を要する事例>

●落下物の危険

ローリングタワー上部で物がはみ出て落下の危険



●つまづきの危険

敷き鉄板に隙間や段差がありつまづく危険



●点検の不備

ワイヤーロープの点検シールが2色貼られ点検時期が不明確



●電源ボックスの監理

ボックスに鍵が無く取り扱い責任者の表示もない



◆印象に残ったパトロールポイント<検討を要する事例>

●怪我の危険

足場側に突き出た鉄筋が危険な位置にある



●転落の危険

足場に幅木の設置がない部分があった



●転倒の危険

トイレ前に段差がある滑り止めやマットも必要



●危険部の警告

開口部を板で塞ぎ危険表示もあるが片側だけなのでもう反対側にも表示が必要



●廃材の置き方

建物内の作業で縁に砕いたコンクリが集められていて落下した場合危険



●整理整頓

鉄屑等はトンパックに入れて廃棄物表示を明確に



新年のごあいさつ



長野労働基準監督署
署長 柴崎 正彦

まず、「法令と安全の基本ルール」の遵守!

明けましておめでとうございます。

建設業労働災害防止協会長野県支部長野分会の会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、旧年中は、当署の業務運営とりわけ労働災害の防止などの面において格別なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和5年の当署管内の労働災害については、12月末現在（速報値）で、休業4日以上死傷者数が397人と前年に比べて6人の減少（△1.5%）となり、僅かに前年を下回りましたが、過去20余年で一番多かった令和4年に近い数値となっています。この内、建設業では、死傷者数49人と、前年と比べ18人の増加（+58.1%）と大幅な増加となっており、その中でも土木工事業が突出しています（対前年比+17人、+283.3%）。

年明け早々、堅いことを申し上げるようで大変恐縮ですが、各会員の皆様、各事業場、各現場ともに、まずは、最優先で、法令と安全の基本ルール遵守の徹底をお願いいたします。是非、新しい年を迎えたこの時期を契機に、原点に立ち返っていただき、再点検をお願いいたします。

また、建設業における労働災害を事故の型で見ますと、やはり「墜落・転落」が一番多いことから、引き続き、同災害の防止を含む、三大災害の防止のための取り組みに万全を期していただきたいと思っております。そのため、特に、足場・手すりを始め

とする墜落防止のための設備や墜落制止用器具（使用・着用）などについて、前述の「法令と安全の基本ルール遵守」に係る再点検をお願いしたいと思います。

続いて、高齢労働者の対策ですが、多くの業種や職場において、年々、高齢労働者が増えることが見込まれますので、通常の安全衛生対策に加え、高齢労働者が働くことを意識した職場環境の整備、労働災害防止対策を講じる必要があります。店社や各現場におかれても、高齢労働者が増加しているところが多いと思われますので、冬季の転倒災害防止なども含め、それぞれ、十分な対策とご配慮をお願いしたいと思います。

本年は、4月から、いよいよ建設業における時間外労働の上限規制がスタートするなど、会員の皆様にとって厳しい面があると存じますが、一方で、今後、働き方改革を進めて行くことによって、良い面や成果（「職場の働きやすさ」「人材の確保」等）も必ず生じて来るものと信じております。そのためにも、是非、適切な対応をお願いできればと思います。なお、ご不明な点やご相談などがあれば、当署窓口、働き方改革推進センターなどに、お気軽にお寄せください。

結びになりますが、長野分会の益々のご発展並びに会員皆様の更なるご健勝を祈念して、新年のあいさつとさせていただきます。

長電建設に安全衛生優良賞 広島で全国建災防大会

建設業労働災害防止協会（建災防、今井雅則会長）と建災防広島県支部（檜山典英支部長）が主催する第60回「全国建設業労働災害防止大会」が10月5～6日の2日間、広島市で開催された。

専門部会、安全衛生活動発表、安全保護具等の展示会などが行われ、5日の総合集会で今井会長は「大会を機に労働災害防止活動の大切さを再認識し、心新たにゼロ災達成へ尽力する」と決意表明を行った。

当分会からは、飯島泰臣分会長、鹿熊聡副分会長、藤森将一安全指導者会長、深見健吾事務局長、安全衛生表彰優良賞を受賞した長電建設の片桐正博取締役が参加した。



高齢労働者の労働災害防止について ～エイジフレンドリーな職場づくりを進めましょう～

長野労働基準監督署

令和5年12月末日における休業4日以上労働災害（速報値）は、前年同期に比べて6人（1.5%）減少の397人となっています。傾向として、60歳以上の高齢労働者が124人と全体の3割以上を占める状況にあることから、高齢労働者を雇用している事業場などにおかれましては、令和2年3月に策定された「エイジフレンドリーガイドライン」に基づく取組の推進をお願いします。



【取組の例1】

加齢による心身の衰えのチェック項目（フレイルチェック）等を導入し、労使共通認識のもとで、必要な取組を推進

【取組の例2】

疾病を抱えながら働き続けることを希望する高齢者の治療と仕事の両立を考慮し、社内体制を構築

【取組の例3】

日頃からストレッチや軽いスクワット運動等を取り入れ、基礎的体力の維持に取り組む

1 エイジフレンドリーガイドラインとは？

令和2年の全国安全週間は、「エイジフレンドリー職場へ！ みんなで改善 リスクの低減」のスローガンの下で実施されました。

この聞き慣れない「エイジフレンドリー」という言葉は、「高齢者の特性を考慮した」という意味を持ち、WHOや欧米の労働安全衛生機関で使用されている言葉となります。

こうした言葉が、全国安全週間のスローガンとして使用されていることから見ても、今後の安全衛生管理活動を推進していく中で、高齢労働者の安全衛生対策がより重要な役割を持つようになってきていると御理解いただけたと思います。

このように重要な役割を持つようになった高齢労働者の安全衛生対策のため、厚生労働省は、令和2年3月に「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン（通称：エイジフレンドリーガイドライン）」を発表しています（令和2年3月16日付け基安発0316第1号「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドラインの策定について」）。

このエイジフレンドリーガイドラインは、

高齢労働者を現に使用している又はこれから使用する予定の事業場に対して、事業者と労働者に求められる取組等を具体的に示したものとなり、

第1 趣旨

第2 事業者に求められる事項

第3 労働者に求められる事項

第4 国、関係団体等による支援の活用

という項目から構成されています。

2 第14次労働災害防止計画等

厚生労働省の定める第14次労働災害防止計画では、高齢労働者の労働災害防止対策の推進を重点取組事項のひとつとして、各施策を展開しています。

当署においても、同様に高齢労働者の労働災害防止対策の推進を重点取組事項に掲げ、関係事業場への取組推進に関する周知、指導等を行っているところです。

なお、エイジフレンドリーガイドラインがわかりにくい、との意見等があることから、厚生労働省では、「エッセンス版」の作成を行うこととしており、発出された場合は、各種機会等を通じて周知等を行う予定です。

～現場の安全管理再確認のために～

建設工事に関する労働災害事例を紹介します。 長野労働基準監督署

電動シャッターのカーテンが落下し下敷きになる (県外の事例)

<p>業 種 : 設備工事業 性 別 : 男 職 種 : 鉄工 経験年数 : 20年 年 齢 : 40代 傷病名等 : 休業2か月 左脛骨骨折、腓骨骨折</p>	<p>発 生 状 況</p>	<p>製造工場内の設備工事現場において、工所用資材を工場内に搬入するため、電動シャッター（以下、「シャッター」という。）のシャッターカーテンを上昇させていたところ、突然カーテンが地上約3mのところから落下し、シャッターの下で待機していた被災者の足が挟まれたもの。</p> <p>【参考事項】 ①シャッターの大きさ等 ・大きさ：幅3.6メートル、高さ4m ・シャッターカーテン重量：約400kg ②シャッター使用期間約15年 ③点検状況：未実施</p>
--	----------------------------	---

【発生原因】

- 1 シャッター稼動中にその下に立ち入ったこと（メーカーの注意事項を厳守していなかったこと）。
- 2 シャッターの駆動モーター側のギヤとシャッター側のギヤを結ぶ動力伝動用のチェーンが破断したため、シャッターカーテンの巻取りドラムがフリー状態となり、収納されていないカーテンの自重でカーテンが落下したこと。
 なお、チェーンが破断した原因は、①メーカーが想定している使用条件以上にシャッターが開閉されていたこと、②チェーンの耐用年数を超えて使用したことから、チェーンが疲労破断したものと推定される。
- 3 定期的に点検を実施していなかったこと。

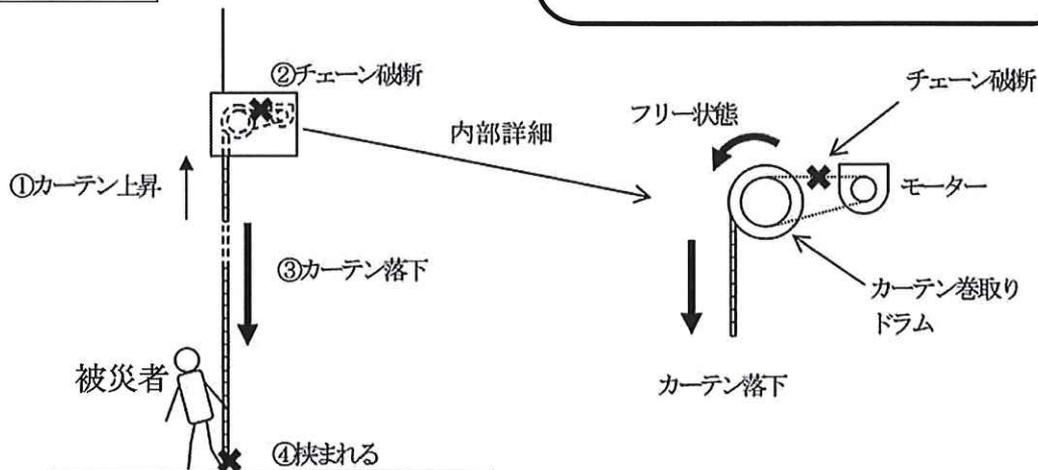
【対策】

- 1 シャッターの稼動中には、その下に立ち入らないことを徹底すること。
- 2 メーカーからシャッターの耐用年数等の情報入手し、点検時期や部品交換時期等についてあらかじめ定めておくこと。
- 3 定期的にメーカーの定める電動シャッターの点検を行うこと。

物理的に「落ちる」、「落ちてくる」リスクがある場所において、このような予測困難な災害が発生しています。

現場においては、事例のような「飛来・落下」をはじめ、「墜落・転落」等のリスクを調査・把握し、必要な措置を講じましょう。

災害発生状況図



発行所 建設業労働災害防止協会長野県支部長野分会
 長野市岡田町124-1長水建設会館内 電話026-227-6226

発行責任者 飯島 泰臣 藤森 将一

編集制作 藝芸・長野経済新聞社